

2006年4月27日

天塩川流域委員会委員長

清水康行 様

サンルダム建設を考える集い、下川・自然を考える会、サンル川を守る会、名寄・サンルダムを考える会、(社)北海道スポーツフィッシング協会、大雪と石狩の自然を守る会、旭川・森と川ネット21、環境ネットワーク旭川地球村、遊楽部川の自然を守る会、北海道自然文化ネットワーク、(社)北海道自然保護協会、北海道の森と川を語る会

流域委員会の窓口および運営に関する申し入れ書

私どもは天塩川流域委員会で審議されている内容や進め方に強い関心をもっています。そのため、委員会の審議に合わせて見解や申し入れを行ってきました。私ども市民団体からの意見は旭川開発建設部を経由して各委員にも配布されています。しかし、文書だけの申し入れでは私どもの考えを十分に伝えられていないと考えています。開発局に話し合いを申し入れたところ、住民団体などの意見は流域委員会で対応しているので、開発局では対応しないとの回答をもらっています。そこで、流域委員会の窓口ともいべき清水委員長に下記の点について申し入れを行います。ぜひご検討の上、5月10日までに文書でご回答をお願い致します。

1 専門家や地域住民を含む私どもと話し合いの場をもっていただきたい。

流域委員会の設置要領には委員長は専門家や地域住民との意見聴取を行う任務が記されています。個別には会わないと言われてはいますが、これでは委員長としての責務を果たせません。委員長は、少なくとも、きちんと文書や冊子をまとめて意見を提示するものに対しては、積極的に意見聴取を行うべきであると考えます。

2 流域委員会の独自性を確保していただきたい。

現在までの流域委員会の審議状況は、開発局の説明を聞いている時間が長く、委員同士の議論は十分に行なわれていません。委員長は「必要があれば、流域委員会は委員会に住民や専門家を招いて意見をきき、討論することによって問題点を検討する」と言われていますが、これまで、そのような機会は設けられていません。

私どもはこのたび、の冊子は、整備計画原案を根本的に批判し、別な整備計画案を提案する冊子を刊行いたしました。120ページにもわたる冊子の検討を行うには、冊子を書いたものを委員会に呼んで説明させ、内容の妥当性や、原案との比較を委員会が行なう必要があると考えます。委員会としての考えを集約し、委員会独自で意見をまとめるためには、このような機会をつくり、委員会のなかで徹底的な議論をしていただきたいと思えます。

委員会終了後には、開発局が記者会見を行っていますが、開発局は事務局にすぎません。流域委員会の責任ある立場にある清水委員長が記者会見をすべきであると考えています。

3 委員会議事録を全文公開していただきたい。

私どもは再三にわたってこの問題を要求してきました。外部の専門家や地域住民が正確な情報を得るようにすることは、流域委員会の重要な役割です。すでに、開示請求によって議事録は公開されています。全文公開に何ら支障はないと思えます。

(回答送付先—12団体窓口—)

〒060-0061 札幌市中央区北3条西11丁目加森ビル5-6F
社団法人 北海道自然保護協会 会長 佐藤 謙